

資料 2-2
中部様式

令和 7 年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価
(及び地域公共交通計画の評価結果) 概要 (全体)

岡崎市地域公共交通会議
(岡崎市)

案

令和 6 年 4 月 1 日設置

令和 4 年 3 月 14 日 岡崎市地域公共交通計画策定
(計画期間: 令和 4 年 4 月～令和 9 年 3 月)

評価対象の地域公共交通確保維持事業
・ 地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金

1. 【Plan】協議会等が目指す地域公共交通の姿①

【地域公共交通計画について】

【岡崎市の概要】（令和7年4月現在）

人口：381,638人

鉄道：3路線17駅が所在

バス：バス基幹軸を中心に49路線が所在

タクシー：市内に本社を有する事業者6社

【計画策定の背景】

本市では、他の分野政策・計画との連携・連動を図りながら、地域公共交通網の形成及び確保に資するマスタープランとするため、令和4年3月に**岡崎市地域公共交通計画**を策定した。

計画の基本理念

「新たな暮らしと活力の創造を支える交通体系」

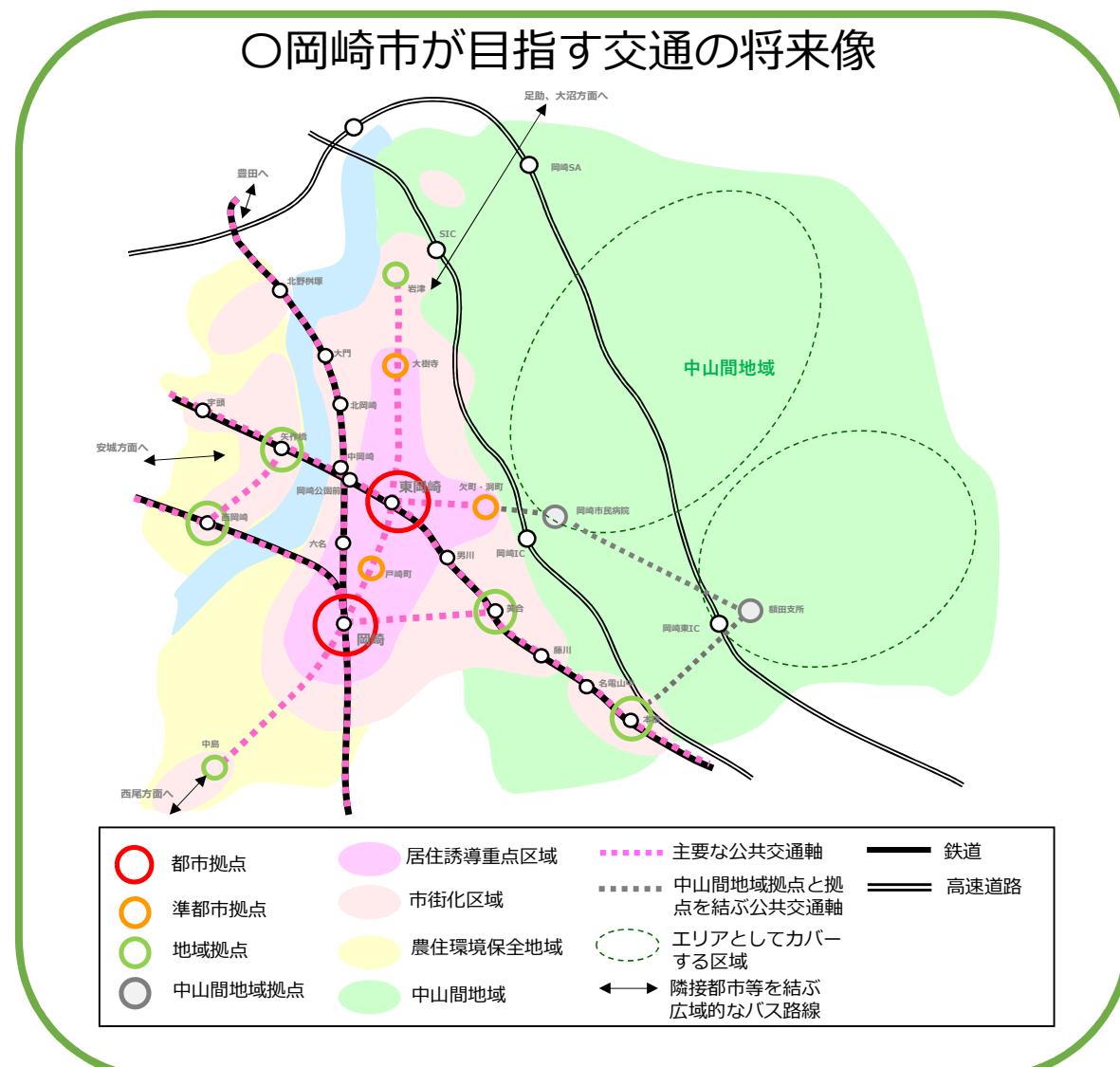
基本目標

- 1 交流を支え都市の魅力を高める
- 2 地域のニーズにあった地域主体の交通
- 3 人と環境にやさしい交通
- 4 新たな社会に対応したスマートな交通

成果目標

「公共交通利用者数の回復」

鉄道:2,678万人、バス:668万人、タクシー:137万人



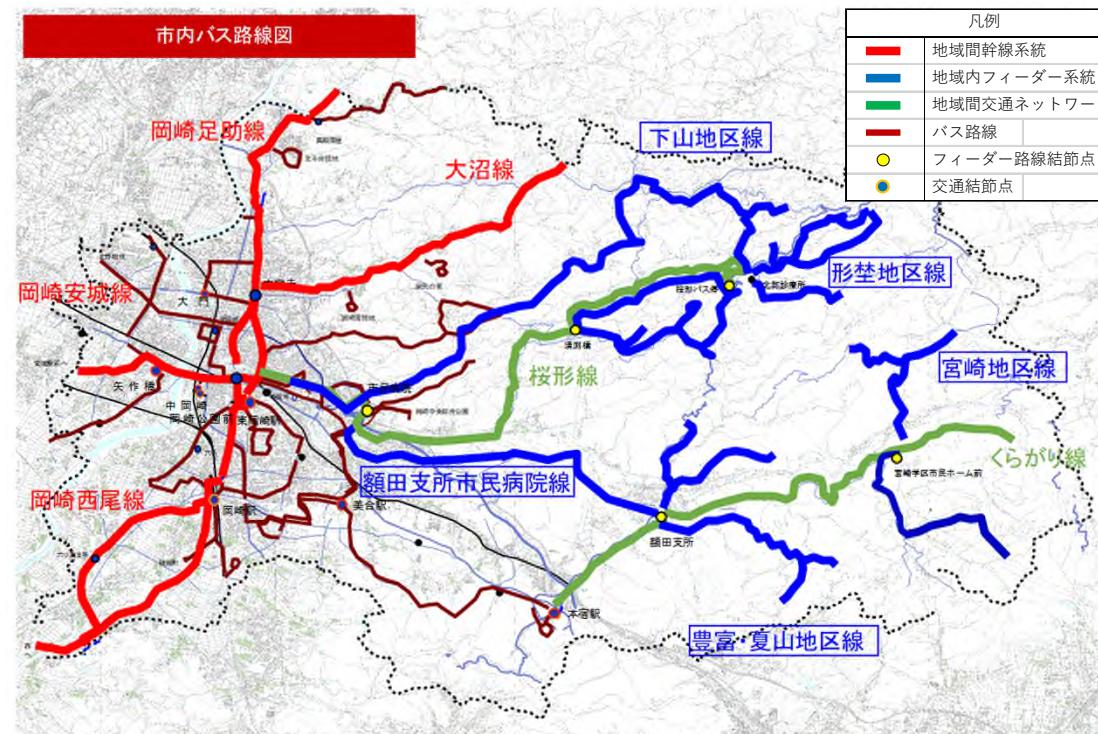
1. 【Plan】協議会等が目指す地域公共交通の姿②

3

【地域公共交通確保維持事業について】

この事業は、生活交通の存続が危機に瀕している地域等において、地域の特性・実情に最適な移動手段として、地域公共交通の確保・維持するために地域公共交通計画に基づき実施される。

地域公共交通確保維持事業の区分	概要	補助対象路線	地域公共交通計画の策定主体
地域間幹線系統確保維持費国庫補助金	地域をまたがる幹線バス交通ネットワークの確保維持事業	大沼線、岡崎西尾線、岡崎足助線、岡崎安城線	愛知県 (愛知県公共交通協議会にて協議)
地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金	山村振興法に基づき指定された振興山村(額田地域全域)を沿線に含む地域間交通ネットワークと接続する地域内交通の確保維持事業	額田支所市民病院線、下山地区線、形埜地区線、宮崎地区線、豊富・夏山地区線	岡崎市 (岡崎市地域公共交通会議にて協議)



2. 【Do】目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組①

4

基本目標	取組の概要	実施結果	実施結果の考察
1 交流を支え都市 の魅力を高める	<p>①【おかざきスマートムーブアクション2025】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共交通ポスタークールの実施 ・公共交通に親しむ日の実施 ・小学生のバスの無料乗車デーの実施 ・公共交通・交通安全教室の実施 ・スマートムーブ強化月間の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学生向けに公共交通ポスタークールを実施し、合計125点の応募があった。 ・公共交通に親しむ日を実施し、2会場3日間合計で約1,500人に参加いただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ポスタークールを通じて、公共交通に关心を持つもらうこと及び公共交通の大切さを知つもらう機会を創出することができた。 ・市内の公共交通の実情の紹介を行うだけでなく、公共交通に関するアンケート調査を実施し、市民の声を聞くことができた。
	<p>②【公共交通マップ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共交通マップを19,000部製作し、公共交通利用に関する情報提供を充実させ、利用者の利便性向上を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内公共施設、観光案内所及び公共交通イベント等で約10,000部配布した。 (11月10日時点) 	<ul style="list-style-type: none"> ・いつも持ち歩いているといつも届くなど、市民にとっては公共交通利用の手助けとなっている。 ・地域内交通を検討する際の地域住民の資料として活用されている。

①



②



2. 【Do】目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組②

基本目標	取組の概要	実施結果	実施結果の考察
1 交流を支え都市 の魅力を高める	<p>③【岡ジャズトレイン】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度から愛知環状鉄道の利用促進策として、岡崎ジャズストリートの開催時期に合わせて実施（令和7年11月1日（土）） 今年度は昨年度に引き続き、旅行会社の企画ツアーアとして岡ジャズトレイン専用の貸切列車を運行。特別感を高めるため、ツアー内容に岡崎市のご当地グッズとしてドリンクや菓子をセットにするなど工夫をした。 <p>（ツアー内容）</p> <ul style="list-style-type: none"> 旅行代金（大人ひとり）6,500円 (子供ひとり) 5,750円 約45分×2ステージ 岡ジャズトレイン記念デザインキーホルダー付 岡崎市のご当地ドリンク、スイーツ付 	<ul style="list-style-type: none"> 参加者：70名 アンケート回答者の約9割がツアーレートは適切であったとの回答を得られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 民間事業として成立したことで、今後ジャズだけではなく、他のコンテンツとの連携した企画も期待できる。 今年度は予約開始後、数日で完売するなど今まで以上に反響があった。より多くの人に体験してもらう方法を検討していきたい。

③



2. 【Do】目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組③

基本目標	取組の概要	実施結果	実施結果の考察
2 地域のニーズにあった 地域主体の 交通	<p>④【矢作デマンド】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「矢作デマンド」実証実験の継続（3年目） ・地域協議会を12回/年開催 ・運行時間の変更による影響検証 平日9時～17時→平日9時～13時 ・運行台数の変更による影響検証 9時～13時：2台→ 9時～11時：2台 13時～17時：1台→11時～13時：1台 	<ul style="list-style-type: none"> ・稼働率が上昇した。 37%(R6.4～R7.3) →52%(R7.4～R7.9) ・時間あたり人数が増加した。 1.76人 (R6.4～R7.3) →2.48人 (R7.4～R7.9) 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の少なかった14時～17時台をカットすることで稼働率を上昇させることができ、最適な運行計画に近付いていると考えられる。
	<p>⑤【チョイソコおかげ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「チョイソコおかげ」の本格運行の2年目 ・地域協議会を6回/年開催 ・運行時間の変更（平日9時～14時 →平日9時～13時） による影響検証 	<ul style="list-style-type: none"> ・月平均利用者数は増加。 191人/月(R6.4～R7.3) →212人/月(R7.4～R7.10) ・月平均乗合率も上昇。 1.42人(R6.4～R7.3) →1.45人(R7.4～R7.10) ・運行時間の変更により、各指標が良化していることを確認した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の少なかった13時台をカットしたが、全体の利用者数は増加しており、最適な運行計画に近付いていると考えられる。
	<p>⑥【額田地域コミュニティ交通】★</p> <ul style="list-style-type: none"> ・額田地域コミュニティ交通の運行を継続 ・地域の移動ニーズに合った交通手段を検討するワークショップを愛知県主導の下、地域と連携して実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年10、11月に額田地域の全5学区を対象に、ワークショップを3回開催し、81名に参加いただいた。 ・地域の移動に関する課題や今後必要な地域内交通について、地域内で検討し共有することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の移動ニーズに合った新たな交通手段の構築に向けた検討ができている。

★は補助対象の取組について記載

2. 【Do】目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組④

7

基本目標	取組の概要	実施結果	実施結果の考察
3 人と環境にやさしい交通	<p>⑦【岡崎モデル】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度末に名鉄バス(株)と包括連携協定を締結し、公共交通の確保・維持を見据えた人材確保を目的とし、外国人運転士の誕生に向けた支援体制を構築する『岡崎モデル』の実現に向けた取組みを実施 市は病院など生活に必要な情報提供や転入手続きのフォローや外国人コミュニティの紹介などの生活支援を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 「岡崎モデル」採用第1号の運転士（ブラジル出身）が、市内の日本語学校（株式会社 EGAO GROUP）での日本語学習を修了し、令和7年2月に名鉄バス株式会社に入社。大型自動車第二種免許の取得や社内の新任運転士研修を経て、7月29日から単独乗務を開始した。 	<ul style="list-style-type: none"> 行政・バス会社・日本語学校が一体となって取り組むことにより、採用第1号の運転士のデビューを実現することができた。

⑦



全国初!! 外国人運転士の誕生を目指し『岡崎モデル』の実現に向けた取組を始めます！

岡崎市と名鉄バス株式会社はこのたび包括連携協定を締結し、公共交通の確保・維持を見据えた人材確保を目的とし、外国人運転士の誕生に向けた支援体制を構築する『岡崎モデル』の実現に向けた取組をスタートいたします。

バス運転士の高齢化や人手不足に伴い公共交通の維持が困難に

運転士の特定技能制度への追加方針を受け外国人運転士の誕生に向けた仕組みづくりへ

「バス業界の2024年問題」もあいまって今後の人手不足に拍車



2. 【Do】目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組⑤

基本目標	取組の概要	実施結果	実施結果の考察
4 新たな社会に対応したスマートな交通	<p>⑧【自動運転バス】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度から実施している自動運転バスの実証実験を今年度も実施予定（一般試乗：R7.11.30～R7.12.20※火曜運休） 市内で最も本数の多い既存バス路線（名鉄東岡崎駅南口～JR岡崎駅東口）をレベル2で走行 東海地方で初めてとなる、市街地における国内メーカー（いすゞ自動車）の大型車両を活用した実証を実施 日常的に住民の移動需要が高い区間を結ぶバス路線ルートの大型バスの自動運転化による、輸送力と定時運行の維持確保を目指す 18日間（10便/日）と走行回数を増やし、レベル4の認可取得に向けた走行データ取得を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> 乗車人数（最大予約枠） ○○人 	

(8)



3. 【Check】 計画の目標の達成状況とその理由についての考察①

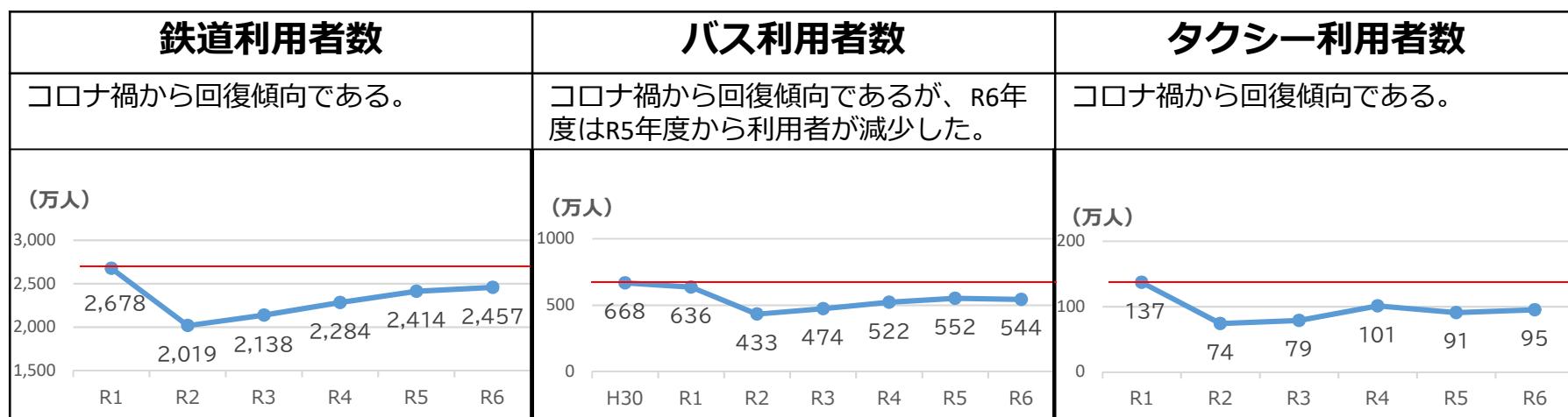
【地域公共交通計画における目標の達成状況】

成果目標・目標値（※1）	達成状況（※2）				
	1年目	2年目	3年目	4年目 (本年)	5年目
公共交通利用者数の回復	鉄道利用者数 2,678万人（令和8年度）	2,138万人 (令和3年度)	2,284万人 (令和4年度)	2,414万人 (令和5年度)	2,457万人 (令和6年度)
	バス利用者数 668万人（令和8年度）	474万人 (令和3年度)	522万人 (令和4年度)	553万人 (令和5年度)	544万人 (令和6年度)
	タクシー利用者数 137万人（令和8年度）	79万人 (令和3年度)	101万人 (令和4年度)	91万人 (令和5年度)	95万人 (令和6年度)

※1 コロナ禍前の平成30年度～令和2年度の最大値を目標値として設定

※2 把握できる直近の数値を記載

【計画目標の現在の到達点】 ※赤線：目標値 青線：実績



○考察

- 大河ドラマ放送の影響や新型コロナ感染症の分類変更などの影響により、鉄道、バス、タクシー共に令和3年度と比較して利用者数が回復しているが、バスについては、岡崎警察署の移転等の影響で、令和6年度は令和5年度から利用者が減少した。
- 鉄道については、定期利用者が増加している事業者もあり、通勤・通学需要も回復傾向にあると推察される。

3. 【Check】計画の目標の達成状況とその理由についての考察②

【地域公共交通確保維持事業における目標の達成状況】

○計画における目標値

①利用者数：令和4年度実績値の1%増の数値

②利用率：人口が減少傾向にあるため、令和4年度実績値から上昇するように目標値を設定

路線名	①利用者数			評価	目標・効果達成状況 A/B/C
	令和7年度 目標(人) R06.10～R07.9	令和7年度 実績(人) R06.10～R07.9			
A:額田支所市民病院線	6,078	5,363	未達成		B
B:下山地区線	3,249	4,279	達成		A
C:形埜地区線	242	90	未達成		B
D:宮崎地区線	229	168	未達成		B
E:豊富・夏山線	229	209	未達成		B

路線名	③日利用者数	④沿線人口	⑤年間運行日数	目標・効果達成状況 A/B/C
	令和7年度 目標(人) R06.10～R07.9	令和7年10月 (人)	令和7年度 目標(日) R06.10～R07.9	
A:額田支所市民病院線	14.7	10,877	365	
B:下山地区線	17.6	756	243	
C:形埜地区線	1.9	1,144	48	
D:宮崎地区線	3.3	637	51	
E:豊富・夏山線	4.1	2,835	51	

※「②利用率」 = 「③日利用者数」 / 「④沿線人口」 × 100

※「③日利用者数」 = 「①年間利用者数」 / 「⑤年間運行日数」

○参考（令和7年度以降計画における目標値の見直し）
額田地域の人口減少を加味したうえで、利用率を0.01%上昇させることにより、利用者数の維持を図る。

利用者数：前年度人口 × 額田地域の想定人口下落率 × 利用率 × 年間運行日数

利用率：令和6年度実績を基に、毎年0.01%を加算する

○考察

A評価路線

地域が中心となり利用促進に取り組んだ結果、特認校制度による小学生や、高校生の定期的な利用により目標が達成された。

B評価路線

定期的に利用していた高齢者が外出できなくなる一方で、高齢者世代が免許を保有し運転し続けていることによりバスの利用者数が減少していると考えられる。目標は未達成だが、地域の移動ニーズに合った交通手段を考えるワークショップが開催されるなど、利用促進や地域の移動について考える活動が見られるためB評価とした。

【地域公共交通計画における今後の方針】

全体	<ul style="list-style-type: none">利用促進策として実施する「おかざきスマートムーブアクション」の取組である、公共交通ポスタークールや公共交通に親しむ日、スマートムーブ強化月間などを引き続き実施し、子どもや公共交通を普段利用していない方などが公共交通に触れたり親しむ機会を創出することで、公共交通の利用促進に繋げていく。
鉄道利用者数	<ul style="list-style-type: none">ウォーキングツアーやジャズトレイン等を事業者と連携して実施することで、公共交通の利用促進に繋げていく。パークアンドライドのほか、公共交通と連動したサイクルアンドライドを推進するため、鉄道駅でのシェアサイクルの利用状況を分析し、利用回数が増加しているステーションへの自転車の再配置を行うことで、周遊しやすい環境を整備。
バス利用者数	<ul style="list-style-type: none">チョイソコおかざきや矢作デマンドの導入によって、既存路線とのシームレスな移動を確保し、移動総量の増加に繋がるかを検証していく。事業者が実施する「こどもmanacaおでかけキャンペーン」などと連携することで、公共交通の利用促進に繋げていく。
タクシー利用者数	<ul style="list-style-type: none">タクシー事業者と利用実態等の情報共有を行い、利用促進策の検討を行う。地域内交通の導入に際し、タクシー事業者とともに事業を進めていく。

【地域公共交通確保維持改善計画における今後の方針】

全体	<ul style="list-style-type: none"> 利用状況等の現状分析や改善点等の検討を行うとともに、運転手不足の影響を考慮しつつ運行を継続する。 ワークショップの結果を踏まえ、移動ニーズをより反映した交通になるように事業者及び地域と検討をしていく。
額田支所市民病院線	<ul style="list-style-type: none"> 医療施設や市街地への移動の際に必要な地域住民の生活の足として重要な役割を担う路線であるため、地域住民や事業者と連携し、路線の維持に努めるとともに、高齢者バスの周知や公共交通マップの配布などの公共交通の利用促進を行う。
下山地区線	<ul style="list-style-type: none"> 地域が中心となり利用促進に取り組んだ結果、特認校制度による小学生や、高校生の定期的な利用により目標が達成されており、引き続き各施策を実施するとともに、地域や事業者と連携し、路線の維持に努める。 老人クラブのイベント活用、バス停整備等の地元主体の活動について、引き続き地元老人クラブ等への周知に努める。 運行内容のチラシ配布、利用状況やお得なバスの使い方の周知など、地域による一層の周知に努めるとともに、利用者の声を聞き需要把握に努める。
形埜地区線 宮崎地区線 豊富・夏山地区線	<ul style="list-style-type: none"> 実利用者が少なく、定期的な利用者が一人でも乗車できなくなると利用者数及び利用率の目標達成に影響が出るが、利用者にとっては必要不可欠な路線であるため、地域住民や事業者と連携し、路線の維持に努める。 各地区線で利用できる高齢者定期券の購入費用の一部を、地域が助成する取組みなどを検討していく。 運行内容のチラシ配布、利用状況やお得なバスの使い方の周知など、地域による一層の周知に努めるとともに、利用者の声を聞き需要把握に努める。 接続する路線で利用できる高齢者バスや小学生の遠足等で積極的に利用していただけるよう、公共交通利用について一層の周知を図る。

5.直近2年間の二次評価の活用・対応状況

13

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回	<ul style="list-style-type: none"> ・デマンド運行と路線バスの連携について、乗り継ぎを意識意識した周知を積極的に行うなど利用促進に繋がる取組が関係者連携の下進められることを期待します。 ・引き続き、地域と連携して地域内フィーダー補助系統の利用促進に取り組むとともに、今回把握したアンケート結果も活用結果も活用し、地域と連携し、移動ニーズを反映した地域内交通が構築されていることを期待します。 ・地域間幹線系統である大沼線の輸送量が補助要件基準の15人に近いことから、引き続き、現状の把握に努めるとともに、愛知県や豊田市等関係者と連携して更なる利用促進を図るよう期待します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デマンド運行と路線バスの連携について、乗り継ぎ割引があることをデマンド交通車両内やデマンド通信で周知を行った。 ・地域内フィーダー補助系統について、地域の移動ニーズに合った交通手段を検討するワークショップを愛知県主導の下、実施した。 ・地域間幹線系統について、民間バス事業者及び隣接市と連携し、利用促進について検討した。 特に、岡崎・安城線は商業施設を通るようにルート変更をし、より利用しやすい路線とした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デマンド運行と路線バスの乗り継ぎ割引以外にも、利用促進に繋がる取組を関係者と連携して検討を行う。 ・ワークショップの実施結果を踏まえ、地域の移動ニーズをより反映した交通になるよう事業者及び地域と検討を行う。 ・引き続き民間バス事業者及び隣接市と調整を行い、地域間幹線の利用促進の検討を行う。

※前回：令和7年3月27日

5.直近2年間の二次評価の活用・対応状況

14

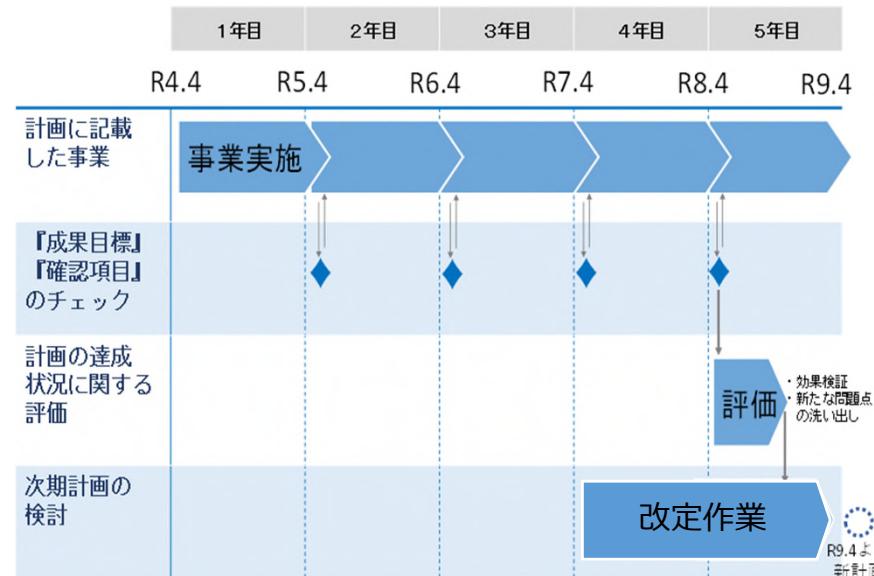
年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前々回	<p>引き続き、地域間幹線系統の利用状況に留意し、地域内フィーダー補助系統の利用者数の目標が未達成のものについては、引き続き利用促進が行われると共に、利用が想定される方々の人数やその方々へ周知されているか、また、地域住民の移動ニーズの丁寧な把握など、分析の深掘り等についても検討されることを期待します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域間幹線系統について、民間バス事業者及び隣接市と連携し、利用促進について検討した。特に、岡崎・安城線は商業施設を通るようにルート変更をし、より利用しやすい路線とした。 地域内フィーダー補助系統について、沿線の地域住民の移動ニーズを確認し、地域に必要な公共交通を検討するために、地域が主体となって額田地域全世帯に対してアンケートを実施した。また、アンケートと共に運行チラシを配布し、周知にも努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き民間バス事業者及び隣接市と調整を行い、地域間幹線の利用促進の検討を行う。 アンケートの実施結果をもとに、地域の移動ニーズが反映された公共交通を地域と共に検討していく。

※前々回：令和6年3月21日

6.計画・評価の推進体制

○岡崎市の計画の推進方法・推進体制

【計画の推進方法】



- 本計画は、計画全体の目指すところとして『成果目標』を、各基本目標の達成度合いをチェックする目的として『確認項目』を設定し、達成状況を見ながら、計画の進捗状況を管理していく。
- 計画4年目時点には最終評価を行う。なお、次期計画策定の改訂作業については、計画4年目から先行して進めていく。
- 数値指標の目標値は、計画期間中（令和8年度まで）に達成するものだが、毎年度開催する岡崎市公共交通会議にて前年の実施事業の評価とあわせて達成状況を確認していく。

○協議会の実施状況

- 第1回岡崎市地域公共交通会議 5月23日
主な議題：地域内交通の手引き「みんなでつくる 地域の交通」のアップデートについて
- 第2回岡崎市地域公共交通会議 8月4日
主な議題：地域公共交通計画の策定について
- 第3回岡崎市地域公共交通会議 10月17日
主な議題：令和7年度 岡崎市公共交通ポスターコンクールの結果について